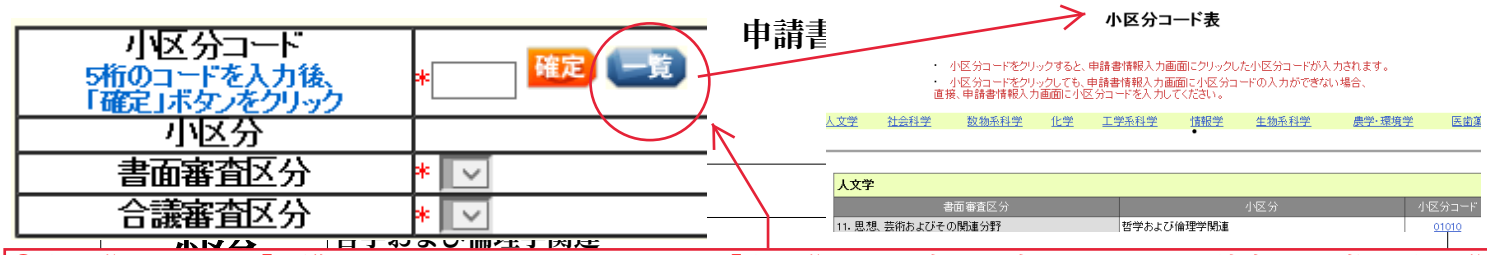
令和4年度(2022年度)　独立行政法人日本学術振興会

研究拠点形成事業－B．アジア・アフリカ学術基盤形成型－

申請書



①小区分コード：「一覧」ボタンをクリックすると、「小区分コード表」が表示されます。該当する5桁の小区分コードをクリックすると、申請書作成画面に小区分コードが入力されます。
②小区分：「確定」ボタンをクリックすると、①の小区分コードに該当する「小区分名」が自動表示されますので、小区分名が正しく表示されているか確認してください。
③書面審査区分：小区分コードに応じて書面審査区分と合議審査区分が自動的に決まる場合は、自動的に表示されます。小区分コードを入力後、審査を希望する書面審査区分と合議審査区分を選択する必要がある場合は、希望する審査区分をプルダウンメニューから選択してください。
【注意】書面審査は、表示された書面審査区分ではなく、「書面審査セット」（本事業では「合議審査区分」が該当します）において行われます。詳細は、https://www.jsps.go.jp/j-c2c/boshuu_shinsei.html　を参照してください。

拠点機関名	(和文) *
	(英文) * Tohoku University
機関長職・氏名 **(実施組織代表者)**	(職名)　総長
	(氏名)　仙台　一郎

「機関長職・氏名（実施組織代表者）」は、拠点機関が大学等の場合は大学等の長、部局の場合は部局の長の情報を入力してください。

【日本側コー

氏名	(漢 字 等) (姓)　四ツ谷	(名)　太郎
	(ローマ字) (姓)　YOTSUYA	(名)　Taro
	* (フリガナ) (姓)　ヨツヤ	(名)　タロウ
	(コード)11301 (和文)東北大学	
部局名	(コード) 2342 (和文)文化人類学	
	(英文) * Graduate School of Arts and Letters	
部局種別	研究科	
職名	(和文)* 教授	
	(英文)* Professor	
e-Rad **研究者番号**	* 12345678	
所属機関 **連絡先**	Email：xxxxxxxxxx@xxxxx.ac.jp	

ローマ字の姓は大文字　例：YOTSUYA
ローマ字の名は１文字目は大文字、２字目以降小文字　例：Taro

【申請課題名等】

研究交流課題名	(和文：桁数は40字以内。化学式、数式は使用不可。) XXXXXXXXXXXXXXX ＊
	(英文) xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx ＊
交流実施期間	＊ 2022 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日（36 か月間）

「旅費」は募集要項別紙に記載のとおり、各年度とも総額の50%以上とします。使用内訳を半角数字で入力してください。研究交流経費・総計は自動計算されます。

【申請経費（単位：千円）　千円未満は切り捨て】

申請経費総額　　24,000 千円

年度	研究交流経費(千円)	使用内訳(千円)				
		旅費	設備備品費	消耗品費	謝金	その他
令和4年度	8,000	6,000	1,000	500	0	500
令和5年度	8,000	6,000	1,000	500	500	0
令和6年度	8,000	6,000	1,000	500	500	0
令和7年度	0	0	0	0	0	0
令和8年度	0	0	0	0	0	0
総計	24,000	18,000	3,000	1,500	1,000	500

【参加研究者（コーディネーターを除く）】

協力機関数	1 機関	参加人数	8 名
協力機関名	○○大学		

①ここでいう「協力機関」は、日本に所在し、拠点機関に協力する機関であって、当該機関の長の承認の下に、一学部又は一学科その他の単位（研究者群を編成する場合を含む）で学術交流の実施を協力するものをいいます。
②協力研究者とは、拠点機関及び協力機関に属さない研究者であって、その者の属する長の承認を得て拠点機関及び協力機関の行う学術交流の実施に協力するものをいいます。
③「協力機関数」「参加人数」「協力機関名」については、電子申請システムに次ページのとおり入力すると自動的に反映されます。

【参加研究者（コーディネーターを除く）】

氏名	機関名 部局名 職名	学位 取得年 専門分野	区分
申請　一郎 シンセイ　イチロウ	（11301）東北大学 （2342）文化人類学	博士（文学） 1985	拠点機関
シンセイ　サンタ	（2342）文化人類学 教授	文化人類学・民俗学	関
申請　四助 シンセイ　ヨンスケ	（99999）○○大学 （2342）文化人類学 講師	博士（文学） 2000 文化人類学・民俗学	協力機関
申請　五実 シンセイ　イツミ	（99999）△△大学 （2342）文化人類学 助教	博士（文学） 2010 文化人類学・民俗学	協力研究者
申請　七香 シンセイ　ナナカ	（99999）□□大学 （2342）文化人類学 博士研究員	博士（文学） 2012 文化人類学・民俗学	協力研究者
申請　八郎 シンセイ　ハチロウ	（11301）東北大学 （2342）文化人類学 博士課程学生	博士（文学）（取得予定） 2022 文化人類学・民俗学	拠点機関
申請　九美 シンセイ　クミ	（11301）東北大学 （2342）文化人類学 修士課程学生	修士（文学）（取得予定） 2022 文化人類学・民俗学	拠点機関

「区分」は、拠点機関、協力機関、協力研究者から選択してください。
※区分の取扱いについては、以下の点にご留意ください。
・拠点機関が大学等の場合：同じ大学等に所属の研究者の区分は「拠点機関」となります。
・拠点機関が部局の場合：同じ大学等の所属であっても、部局が異なる場合は、「協力機関」もしくは「協力研究者」を選択していただくことになります。
・科学研究費補助金取扱規程（昭和４０年文部省告示第110 号）第2 条に規定されている研究機関に所属しない研究者　あるいは　第三国の研究機関に所属する研究者は「協力研究者」として申請書に記載可能ですが、採択後、取扱手引に従って、別途、承認を得なければ、正式に参加研究者とすることができませんのでご留意ください。

①この一覧では、日本側における拠点機関からの参加者（コーディネーターを除く）、協力機関からの参加者、協力研究者としての参加者、を入力してください。
②申請時点での情報を入力してください。
③「氏名」欄のフリガナは全角カタカナで入力してください。記号は、「ー」「・」「（　）」のみ入力可。
④大学院生については、「職名」欄に修士課程学生もしくは博士課程学生と記入してください。
⑤学位取得予定の場合は、「学位」欄に「学位名（取得予定）」、「取得年」欄に取得予定年を記入してください。
⑥機関コード、部局コードに該当がない場合は「その他（機関コード99999）（部局コード999）」を選択してください。

【交流相手国】
【交流相手国拠点機関及びコーディネーター その1 】　　相手国コード　*EGY
エジプト

拠点機関名	(和文) * ○○大学 (英文) * Aaaa University
コーディネーター氏名	(英文)* (ファミリーネーム) SAMPLE　(ファーストネーム) One　(ミドルネーム) Middle
所属部局名	(和文) * 文化人類学 (英文) Graduate School of Arts and Letters
職名	(和文) * 教授 (英文) * Professor
所在地（都市名）	カイロ

【相手国参加研究者（コーディネーターを除く）その1 】

氏名	機関名 所在国・都市名	部局名 職名	区分
SAMPLE Two	Aaaa University Cairo, EGYPT	Graduate School of Arts and Letters Professor	拠点機関
SAMPLE Middle Three	Aaaa University Cairo, EGYPT	Graduate School of Arts and Letters Researcher	拠点機関
SAMPLE Four	Bbbb University Cairo, EGYPT	Graduate School of Arts and Letters Associate Professor	協力機関
SAMPLE Five	Bbbb University Cairo, EGYPT	Graduate School of Arts and Letters Lecturer	協力機関
SAMPLE Middle Six	Cccc University Alexandria, EGYPT	Graduate School of Arts and Letters Doctoral Student	協力研究者

①この一覧では、相手国における拠点機関からの参加者（コーディネーターを除く）、協力機関からの参加者、協力研究者としての参加者、を入力してください。
②申請時点での情報を入力してください。
③「氏名、機関名、国・地域名、部局名、職名」欄は英文で入力してください。アクサン、ウムラウト等特殊文字は審査資料等で表示されないため、使用しないでください。
④大学院生については、「職名」欄にDoctoral StudentもしくはMaster's Studentとしてください。
⑤「協力機関数」「参加人数」は、電子申請システムに上記のとおり入力すると自動的に反映されます。

協力機関数	1 機関	参加人数	5 名

【交流相手国】
【交流相手国拠点機関及びコーディネーター その2 】　　相手国コード　*THA タイ

拠点機関名	(和文) * △△大学 (英文) * Dddd University
コーディネーター氏名	(英文)* (ファミリーネーム) SAMPLE　(ファーストネーム) First　(ミドルネーム) Middle
所属部局名	(和文) * 文化人類学 (英文) Graduate School of Arts and Letters
職名	(和文) * 准教授 (英文) * Associate Professor
所在地（都市名）	バンコク

【相手国参加研究者（コーディネーターを除く）その2 】

氏名	機関名 所在国・都市名	部局名 職名	区分
SAMPLE Middle Second	Dddd University Bangkok, THAILAND	Graduate School of Arts and Letters Assistant Professor	拠点機関
SAMPLE Third	Dddd University Bangkok, THAILAND	Graduate School of Arts and Letters Master's Student	拠点機関
SAMPLE Fourth	Eeee University Chiang Mai, THAILAND	Graduate School of Arts and Letters Senior Researcher	協力研究者
SAMPLE Fifth	Ffff University Bangkok, THAILAND	Graduate School of Arts and Letters Research Assistant	協力研究者

協力機関数	0 機関	参加人数	4 名

【交流相手国】
【交流相手国拠点機関及びコーディネーター その3 】　　相手国コード　*CHN 中国

拠点機関名	(和文) * □□大学 (英文) * Gggg University
コーディネーター氏名	(英文)* (ファミリーネーム) SAMPLE　(ファーストネーム) Un　(ミドルネーム) Middle
所属部局名	(和文) * 文化人類学 (英文) Graduate School of Arts and Letters
職名	(和文) * 教授 (英文) * Professor
所在地（都市名）	北京

【相手国参加研究者（コーディネーターを除く）その3 】

氏名	機関名 所在国・都市名	部局名 職名	区分
SAMPLE Deux	Gggg University Beijing, CHINA	Graduate School of Arts and Letters Professor	拠点機関
SAMPLE Middle Trois	Gggg University Beijing, CHINA	Graduate School of Arts and Letters Associate Professor	拠点機関
SAMPLE Quatre	Gggg University Beijing, CHINA	Graduate School of Arts and Letters Associate Professor	拠点機関
SAMPLE Middle Cinq	Gggg University Beijing, CHINA	Graduate School of Arts and Letters Doctoral Student	拠点機関
協力機関数	0 機関	参加人数	4 名

人権の保護及び法令等の遵守への対応	**確認**	該当あり
	対応内容	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX 該当ありとした場合のみ、対応内容を記入してください。

本欄には、研究計画を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策や措置を講じるのか記述してください。例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続きの状況も具体的に記述してください。（「該当なし」の場合、「対応内容」の記載不要）

＊原則として、当該機関事務局の担当部課とし、責任者は課長相当職、担当者名は係長相当職とします。採用結果及びその他事務連絡先となります。

【事務担当者連絡先】

部課名	＊□課△係			
所在地	＊〒123-4567 ＊○○県□□市△△町×番地			
責任者	＊(漢 字 等) (姓)	責任	(名)	花子
	＊(フリガナ) (姓)	セキニン	(名)	ハナコ
	＊(職名)	課長		
	＊(電話番号)	000-000-0000		
	＊(EMAIL)	**********@xxxxxx.ac.jp		
担当者	＊(漢 字 等) (姓)	担当	(名)	次美
	＊(フリガナ) (姓)	タントウ	(名)	ツグミ
	＊(職名)	係長		
	＊(電話番号)	111-111-1111		
	＊(EMAIL)	bbbbbbb@xxxxxx.ac.jp		

研究拠点形成事業（B.アジア・アフリカ学術基盤形成型）申請書

※本ページは採択後公開されます。

研究交流計画の目標・概要

［研究交流目標］交流期間（最長３年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。（自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成の観点からご記入ください。）

※申請書全体留意事項：

1. 作成に当たっては、募集要項・申請書記入例を必ず確認してください。

2. このファイルは、日本語もしくは英語で作成してください。

3. 使用する文字サイズ及びフォントに指定はありません。

4. 各頁のタイトルと指示書きは動かしたり改変したりしないでください。

5. 指示書きで定められた頁数は超えないでください。なお、空白の頁が生じても削除しないでください。

6. 本留意事項（斜体の文章）は、申請書の作成時には削除してください。

［研究交流計画の概要］我が国と交流相手国の拠点同士の協力関係に基づく多国間交流として、どのように①共同研究、②セミナー、③研究者交流を効果的に組み合わせて実施するか、研究交流計画の概要を記入してください。

様式の改変は認められませんので、各ページで収まるように、フォントサイズ等調整の上、記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

※本ページは採択後公開されます。

［実施体制概念図］本事業による経費支給期間（最長３年間）終了時までに構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

（令和４年度）

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

１.【重要性・必要性】

（１）研究課題の学術的重要性

当該学術分野において研究課題がどのように学術的に重要であるのか記入してください。

（２）研究交流を実施する意義

「アジア・アフリカ地域に特有、又は同地域において特に重要であり、かつ、我が国が重点的に研究することが有意義」と考える点について記入してください。また、日本側拠点機関が主導的に相手国機関と交流を行う必要性・重要性を記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

（３）多国間研究交流により期待される学術的成果

本事業による経費支給期間の終了時に期待される学術的価値の高い成果について、記入してください。（特に、相手国拠点機関との多国間研究交流から得られると期待される成果のうち、世界的水準の国際研究交流拠点の形成につながるものについて記入してください。）

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

（４）国際的な研究交流活動の遂行能力

これまでの日本側コーディネーター及び参加研究者の国際的な研究交流活動（本会事業に限りません。）の実績（見込みを含む）を、本申請課題を通じてどのように発展的に展開するのか記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

（５）日本側コーディネーター及び参加研究者の研究遂行能力及び研究環境

日本側コーディネーター及び参加研究者の多国間研究交流計画の実行可能性を示すため、それぞれの「これまでの研究活動」と「研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）」について記載してください。なお、「これまでの研究活動」の記述には、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもかまいません。（４ページ以内）

※留意事項

1. *研究業績（論文、著書、産業財産権、招待講演等）は、網羅的に記載するのではなく、本研究計画の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。*
2. *研究業績の記載にあたっては、当該研究業績を同定するに十分な情報を記載すること。例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報、など。*
3. *論文は既に掲載が決定しているもの又は掲載が確定しているものに限って記載すること。*
4. *本留意事項（斜体の部分）は、申請書作成時には削除すること。*

様式の改変は認められませんので、各ページで収まるように、フォントサイズ等調整の上、記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。
この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

（令和４年度）

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

２.【若手研究者育成への貢献】

申請機関と相手国機関が連携して実施する若手研究者を育成するための具体的計画について記入してください。特に組織的な教育体制の整備や体系化された育成プログラムを実施する予定がある場合には必ず記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

３.【日本側実施体制】

（１）日本側拠点機関において、中核的研究拠点形成の計画が、当該機関の研究交流活動上、どのように戦略的に位置づけられているか記入してください。なお、申請機関が他制度で機関支援型事業[注1]）の助成を受けている（または見込みの）場合、本申請との関連性があるときには、それらとの相違点も含めて関連性を記入してください。

注１）機関支援型事業とは、研究者個人に交付する研究費等ではなく、研究機関に対して助成する事業です。「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」、「大学の世界展開力強化事業」等が挙げられます。また、本会学術国際交流事業の中では、「日独共同大学院プログラム」、「研究拠点形成事業」及び「日中韓フォーサイト事業」が該当します。

（２）日本側拠点機関における多国間研究交流課題の実施体制（研究費、研究施設、設備、人員を含む）について、機関としてどのように継続的に交流を実施するのか記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。
この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

（３）中核的研究拠点の形成に向けた日本国内における研究協力体制（参加研究者の役割、規模を含む）について記入してください。

（４）経費支給期間終了後の継続性

経費支給期間終了後、どのように中核的研究拠点として活動を継続するのか記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

４.【相手国機関とのネットワークの構築】

（１）当該ネットワークの構築における、多国間交流の特色とその拠点機関の組み合わせ理由を、記入してください。また、当該ネットワークの実現性・継続性について、記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

（２）相手国拠点機関との研究交流の準備状況

相手国拠点機関の機関としての継続的な交流実施体制及び相手国側コーディネーターとの、本事業に係る準備状況について記入してください。なお、相手国側の予算獲得見込みについても触れてください。

また、すでに機関間・部局間等で相手機関と協定を締結し、交流している場合には、締結年月、協定の内容及び協定に基づく交流状況についても記入してください。

（３）当該分野における中核的研究拠点として、将来にわたる協力関係の持続的な発展の見込みについて２ページの実施体制概念図を踏まえて記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

５.【研究交流計画】

（１）事業の目標達成に向けた多国間共同研究の計画（相手国コーディネーター及び研究機関との事前交渉状況も含む）

① 多国間共同研究の計画

共同研究整理番号	共同研究課題名	実施予定期間	参加国
R1			
R2			
R3			

※適宜、行を加除してください。

② ①の各共同研究の具体的な内容。

（令和４年度）

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

③　交流期間（最長３年間）を通じて実施する共同研究がどのように事業の目標達成（自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成）に結びつくのか記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。

この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

（2）セミナー開催地及び参加人数

年度ごとに開催するセミナーについて以下3点を記入してください。

① 開催国、日数、参加拠点、参加人数

② 相手国との事前交渉の状況（相手国開催の場合は相手国の開催経費負担についての交渉含む）

③ 期待される成果

注意）

1 ①の開催国は、原則として日本または相手国とします。

2 ③の「期待される成果」には相手国とのネットワーク形成や若手の育成の効果等、本申請の目標達成に向けた計画について記入してください。

【2022年度】

・ ○○セミナー

①【開催国】エジプト 【日数】３日間 【参加拠点】日本、エジプト、タイ 【参加人数】４０人

② 相手国との事前交渉の結果、開催場所決定済み。会場費は相手国負担。

③ 本セミナーを通じて相手国とのネットワーク形成の強化や若手の育成の効果が期待できる。

・ △△セミナー

①【開催国】中国 【日数】５日間 【参加拠点】日本、中国、タイ 【参加人数】５０人

② 相手国との事前交渉の結果、開催場所決定済み。会場費は相手国負担。

③ 本セミナーを通じて相手国とのネットワーク形成の強化や若手の育成の効果が期待できる。

【2023年度】

・ ○○セミナー

①【開催国】タイ 【日数】３日間 【参加拠点】日本、エジプト、中国、タイ 【参加人数】３０人

② 相手国との事前交渉の結果、開催国が決定済み。相手国の開催経費負担についてはこれから交渉。

③ 本セミナーを通じて相手国とのネットワーク形成の強化や若手の育成の効果が期待できる。

【2024年度】

・ ○○セミナー

①【開催国】日本 【日数】３日間 【参加拠点】日本、エジプト、中国、タイ 【参加人数】５０人

② 相手国との事前交渉の結果、開催場所決定済み。

③ 本セミナーを通じて相手国とのネットワーク形成の強化や若手の育成の効果が期待できる。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。
この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

（３）経費

① 相手国負担による来日の計画（中国、韓国、シンガポール、台湾が相手国となっている場合のみ記入してください。）

相手国名	経費負担区分 （パターン１または２）	初年度の相手国側経費による 来日見込
中国	パターン１	５人（35 人日）

注意）
1　相手国側の「経費負担区分」については、パターン１またはパターン２のどちらかを記入してください。
　　パターン１：日本側研究者の経費は振興会が、相手国側研究者の経費は相手国側学術振興機関等が負担。
　　パターン２：派遣国が派遣にかかる費用を負担し、受入国が受入にかかる滞在費等を負担する等、対等な経費費目を支出。
2　「初年度の相手国側経費による来日見込」については、「８人（５６人日）」（=８人が７日間ずつ計５６人日間来日）のように記入してください。
3　適宜、行を加除してください。

② 初年度日本側経費内訳

注意）

経費費目	主な使途目的	内訳	計（千円）
外国旅費	・セミナー実施 ・資料収集 ・各種調査 ・研究の打合せ ・研究の成果発表	・○○セミナーにて研究発表 「５人（２０人日）（日本－タイ）」 ・△△にて資料収集 「２人（１４人日）（日本－エジプト）」 ・××にて調査 「１人（１４人日）（日本－中国）」 ・○○大学にて研究打ち合わせ 「２人（６人日）（タイ－日本）」	****千円 ****千円 ****千円 ****千円
国内旅費	・セミナー実施 ・資料収集 ・各種調査 ・研究の打合せ ・研究の成果発表	・○○セミナーにて研究発表 ・△△にて資料収集 ・××にて調査 ・○○大学にて研究打ち合わせ	****千円 ****千円 ****千円 ****千円
物品費	・備品の購入 ・消耗品の購入	・○○機器の購入 ・△△試薬の購入	****千円 ****千円
謝金	・研究協力者にかかる謝金	・実験補助への謝金 ・資料整理への謝金	****千円 ****千円
その他	・会場借料 ・学会誌投稿料	・○○セミナー開催のため ・○○雑誌に投稿のため ・△△雑誌に投稿のため	****千円 ****千円 ****千円
合計	8,000 千円 （本会への申請経費（電子申請システム入力部分の【申請経費】の初年度の額）を記入してください。）		

1　「主な使途目的」については、別紙１「研究拠点形成事業経費の取扱いについて」を参照してください。
2　外国旅費については、内訳に、渡航区間と人数（人日数）を、「２人（１４人日）（日本－南アフリカ）」（＝２人を７日間ずつ計１４日間日本から南アフリカに派遣する）のように記入してください。」
3　相手国との経費負担区分によって、派遣旅費と受入旅費を負担する国が異なります。受入旅費が発生するのは、経費負担区分パターン２の場合です。（詳細は、別紙１「研究拠点形成事業　経費の取扱いについて」を参照してください。）

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。
この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。

（４）相手国側マッチングファンド（申請予定を含む）

1）相手国側研究機関名（国名）	2）相手国側申請先学術振興機関名	3）プログラム名	4）申請状況	5）支給（予定）期間	6）支給（予定）総額
○○大学（中国） 相手国側研究機関名は、カッコ書きで国名も付記してください。	Organization A	AAA Program	申請予定 申請状況は、申請予定、申請済、交付決定済のいずれかを記入してください。	2022年4月1日 ～ 2027年3月31日	現地通貨 ****RMB 日本円換算額 ****千円相当
○○大学（タイ）	Organization B	BBB Program	交付決定済	2021年4月1日 ～ 2026年3月31日	現地通貨 ****THB 日本円換算額 ****千円相当

注意）

1　中国、韓国、シンガポール、台湾の場合は、必ず記入してください。これら以外についても将来にわたって自立的に継続的な活動とするため、可能な限り記入してください。

2　2)の相手国側申請先学術振興機関名は、英語で記入してください。

3　4)の申請状況の各項目については、「申請予定・申請済・交付決定済」のいずれかを選択してください。

4　支給期間が令和４年４月以降にかかるファンドを記入してください。（令和４年３月以前に支給期間が終了するものは記載不可）

5　6)の支給（予定）総額には、5)の支給期間で受領する金額の総額を、相手国の通貨による金額及び日本円換算額で記入してください。

6　上記欄で足りない場合には、このページに収まるようフォントサイズの調整の上、適宜行を追加して記入してください。

一般国民に理解できるよう、平易な言葉で記入してください。
この様式は、独立行政法人日本学術振興会において定められたものです。様式の改変はできません。